

カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2011年 6月 59号



〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24
JICA地球ひろば気付
カンボジア教育支援基金 事務局
TEL&FAX 048-431-5669(連絡先竹口)
<http://www.keaf-japan.com>

郵便振替口座

00150-1-558318 カンボジア教育支援基金

「2011年3月 カンボジア出張報告」

出張者 事務局 竹口、小川 報告者 竹口素弘
期 間 3月15日～3月24日
目 的 奨学金・教科書等支援、支援打合せ・調査
訪問先

プレイヴェン州プレアスディ郡
ソンポン小学校、プレイトープ小・中学校、
プロモルプロム小学校、バンティチャクライ中学校
プロモルプロム中・高校、タッコー中・高校
プレイヴェン州コンポントウラバイ郡
プラティアート中学校、コンポントウラバイ高校
プレイヴェン市 プレアンドウン高校
スヴァイリエン州
アンサー小学校、チョーティアル中学校



コンポントウラバイ高校奨学生

1. 奨学金支援

①奨学生：プロモルプロム高校61人、
コンポントウラバイ高校20人、
プレアンドウン高校1人、タッコー高校2人

②奨学金増と支給状況

今年度から、1ヶ月1\$増額して5\$、年10ヶ月で50\$とすることが総会で決まりました。

84人分3～7月までの奨学金を準備し、3月分は本人を確認し手渡しました。欠席者及び4月以降の分は校長先生に保管を依頼しました。奨学生の直筆サインの受領証(各月)で管理しています。

③プラティアート中学

・次年度奨学生候補者

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 個人情報保護のため非表示 (M) | 2. 個人情報保護のため非表示 (F) |
| 3. 個人情報保護のため非表示 (M) | 4. 個人情報保護のため非表示 (F) |
| 5. 個人情報保護のため非表示 (M) | 6. 個人情報保護のため非表示 (F) |
| 7. 個人情報保護のため非表示 (M) | 8. 個人情報保護のため非表示 (F) |
| 9. 個人情報保護のため非表示 (M) | 10. 個人情報保護のため非表示 (F) |

2. 教科書支援の状況

3年計画の2年目に入りましたが、小学、中学、高校とも6-7年ぶりの大改訂が、学年順に行われています。教育省の教科書配布は、相変わらず都市部偏重で田舎の方の学校には、配布が不足しがちです。全く配布のないケースもあります。

今回訪問で、新規要望も増えましたので、学校別、教科別の支援状況、不足状況の整理検討、調査をする予定です。

今回、気づいたことですが、田舎の学校では、教科書がほぼ揃っているという意味は、2人で1冊の場合で、3-4人、4-5人で1冊ということの方が多いうことが判りました。プノンペンで、教科書が揃っているというのは1人1冊のことでした。



理科資料絶賛のタッコーの先生



理科資料集



プラティアート中学

3. その他の懸案事項

①プロモルプロム高校の寄宿舎の利用状況。当初24人程度の生徒が利用する予定でしたが、現在空室もあり、入居者は7名。

②プロモルプロム高校で3月実施予定の今年度修学旅行は、校長先生から中止要請があり了承しました。次年度以降については、次期校長の判断に任せるとのことでした(現校長は来年1月に定年退職とのこと)。数人の奨学生の調査では、希望が多くありました。復活の可能性は今後の協議によります。

「日本教室」の先生をしてみませんか 日本語、子どもの遊び、サッカーなど

KEAF のカンボジア支援活動を支援して東芝国際交流財団が今年度 98 万円の助成金を出してくれます。これを資金に別記のようにプレイヴェン州の小・中・高校で 1 年間に 5 つの「日本教室」を開く準備を始めました。会員および支持者の皆さんのなかに、この教室の先生ならやれる、あるいはぜひやってみたいという方がおられたら、事務局にご連絡ください。

①日本語教室：中・高校生に日本語の基礎を教える。時期は 8 月末から 9 月。

②天体観測教室：天体望遠鏡で星を見たり、星にまつわるおとぎ話を教え合ったりして民話文化の交流を図る。時期は 10～11 月。

③子どもの遊び教室：小学生を中心に絵描き、折り紙、綾取りなどを教える。時期は 10～11 月。

④サッカー教室：中・高校生を中心にサッカーの基礎を教え、ゲームを楽しむ。時期は未定だが、1～2 月を想定。

⑤鉄道教室：カンボジアにも鉄道建設が日程に上り始めているので、日本の鉄道を紹介して、将来に夢をはせる。時期は 2～3 月。

各教室とも授業は 1 週間、往復の旅程を加えて約 10 日間を基本型と考えています。旅費、行動費、資料・教材費などの経費は助成金を充てる。

現地事情を知る事務局から 1 人がコーディネーターとして加わります。

「初めての海外、カンボジア出張」

事務局員 早稲田大学 小川 大地

まず今回このような機会を頂き、貴重な体験をさせてもらったことにとっても感謝しています。ありがとうございました。

一番印象に残った出来事は、滞在中に一日だけ自由な日をもって行った刑務所とキリングフィールドです。刑務所はその当時使われていた拘束用の鉄のベッドや足枷などがそのまま残っていて、壁には首を切られ血を流した人がそのベッドで横たわっている白黒写真が掛けてあり事件の生々しさを全身で感じました。他にも拷問や処刑の道具や手法の資料、強制結婚の資料も展示してあり、ポル・ポトの徹底した政策に愕然としました。事前にコンボーンさんの本を読んでいたのも、彼の逃亡の恐怖がどれほどのものだったか想像すると体の震えが止まらなかったです。



プロモルプロム高校にて小川さん

こういった場所はスタディツアーでも行くと聞いたので、業務を通して気づいたことを書きます。業務で約 80 人の奨学生と面接をして驚いたことがあります。それは高校三年生の 50～90%が携帯電話を所持しているということです。プノンペンではトヨタのレクサスという車やベンツがかなりの数走っていることにも驚きましたが、一部の富裕層がいることは納得できました。しかし携帯電話の普及率は今まで抱いていたカンボジアのイメージと大きくかけ離れていました。地方の生徒でもそういった状況だからです。ガイドのソワンさんに詳しく聞いてみると、20～25 ドルで本体は買えるとのことでした。携帯電話はプリペイドカード式で学生は月に 2 ドル～5 ドルのものを買うことが多いようです。そこで疑問に思ったのは、渡している月 5 ドルの奨学金が携帯電話代金になっているのではないかというものでした。面接しているなかで、趣味が友人と電話と答える生徒も何人かいました。もちろん便利なものなので否定はできないし、彼らにとってどうしても必要なものかもしれません。しかしクラスのほとんどが携帯電話を持ちながらも、教科書を複数人で共有しながら勉強するという状況が不思議で、私は優先順位を考えると教科書等を買ったほうがよいのではないかと思いました。



プロモルプロム高校の奨学生

奨学生達に夢を質問すると、医者、先生と答える人が圧倒的に多く、趣味を聞いても読書や勉強と言う人がほとんどを占めていました。それぞれに家事や実家の農業の手伝いがあり、日本と比べると勉強する環境が劣っていても自分で将来を変えていく意識の高さに私も刺激を受けました。ソワンさんの義理の弟でプノンペン大学4年生の日本語学科に通う学生とも話す機会がありましたが、高校三年生から日本語の勉強を始めて4年間で日常会話を完璧にこなしていました。彼は勉強や外国語の習得以外では収入や職業の選択肢を増やすことはできないと語っていました。日本以上に格差がある国なのでこれほど覚悟の差があるのでしょう。

最後に、カンボジアに来て初めて日本のレベルの高さも実感できました。カンボジアでは車もバイクもトヨタ、ホンダ、スズキがほとんどで、訪問先の学校でも日本製の物なら古くても嬉しいと言ってもらったりしているのをみて、アジアの先進国としても尊敬されていることがわかりました。今まで日本だけにいて、なにげなく元世界No.2だとは思っていましたが、世界で190カ国以上ある中で本当に一握りの恵まれた国、時代に生きることができていることに感謝の気持ちも持てるようになりました。

「カンボジアと関わるきっかけ」

事務局員 東京大学 柴田 亜矢美

私がカンボジアなどの発展途上国に興味を持つようになったきっかけは、浪人時代に塾の先生が個人で卒業生たちと一緒に休みを使ってカンボジアなどにボランティアに行っているという話を聞いたことです。「合格したら君も一緒に行こう」と先生に言われて初めて、自由な時間がたくさん与えられている大学生の間にさまざまな経験もしたいという漠然とした思いもあったので、決意しました。

今年の春、初めてその先生と京大生の方と東大の友達と一緒にカンボジアへ行ってきました。見る景色、環境、そこに住む人々、すべてが新鮮で驚いてばかりいました。テレビなどで見てイメージしていた通りのところもあれば、実際見ると全然違うなと感じるところもあり、現地に来て自分で見ることの大切さを痛感しました。

また、先生たちが真剣に行うボランティア活動を見て、ただ見ているだけで何も出来ない自分を情けなく思いました。一番印象的だったのは子供たちの笑顔です。服はボロボロで、何も履いていない子供もいるのに、彼らは私たちを笑顔で迎えてくれました。カメラ

を向けてもピースしてきたり、一緒に遊ぼうと近寄ってきてくれたり、本当に可愛いなと思いました。一緒にボールで遊んだときは別れるのがとても寂しかったです。



子どもたち

こうした経験から、私はもっと自分でも行動しなきゃなと思い、先生から紹介いただいたカンボジア教育支援基金の会議に参加させていただくようになりました。まだ2回しか参加していませんが、皆さんの真剣な姿に私も頑張らなくてはと改めて思っています。

この夏にはまた、ラオスやカンボジアに先生方と行く予定で、前回よりも多くのことを学び、自分の出来ることを見つけないと思っています。

～～ 新聞奨学生の日本の印象 ～～

貧しい母と姉のおかげで留学できた

事務局員 日本経済大学 ナイ・ヤラン

私はナイ・ヤランと申します。生まれた所はカンボジアのカンダル州です。カンダル州はプノンペン市のある州です。農業が盛んな所です。砂糖きびやトウモロコシやお米などが収穫されます。国の中では、比較的豊かな場所と言われています。しかし、貧しい家もかなりあります。

私が中学生の時、家はとても貧しかったです。私が中学1年の時から、父はずっと病気で、農作業ができませんでした。いつも、母は、父の病気を治すためにあちこちの病院につれて行きました。プノンペン市内の病院やベトナムの病院などに行きました。それで、母も仕事ができませんでした。さらに、父の病気を治すために、たくさんのお金がかかりました。私と三番目の姉が農作業をしました。兄と二人の姉は、結婚してたくさん子供がいたので、少ししか両親の手伝いが出来ませんでした。それで、父の病気治療費のために、私は学校に通いながら、三番目の姉と一生懸命に農作業をしました。私は学校に通っていたので、

村の農家の人達と同じようには、農作業をする時間がなく、主に姉が農作業をしました。午後の6時くらいになると、姉は夕食を作るためと豚や牛や村の鳥に餌をやるために家に帰りました。村の農家の人たちも家に帰りました。だけど、私は姉と交替して午後の6時から午後の9時まで、暗い夜に、一人で田圃で農作業をやっていました。もちろん、お化けのこと（カンボジアの伝統的な言い伝え）はとても怖かったですけれど、病院に支払うお金のために頑張るしかありませんでした。



ナイ・ヤランさん

しかし、どんなに頑張っても、病院に払うお金が足りませんでした。両親の兄弟に、お金を貸して欲しいとお願いしても、皆、黙っていましたので、仕方が無く家の鳥や牛や豚、それにボートや土地など何もかも売ってしまいました。しかし、いくらお金を使っても父の病気は治らず、さらに悪くなり、私が中学校の三年生の時、亡くなってしまいました。亡くなる時ですら、私と三番目の姉は田圃に稲を植えに行かなければならず、父の最後の時に会えませんでした。父は亡くなる前に、「ヤランには、どんなに苦労しても、どんなに貧しくても、勉強をやめさせないで、必ず続けさせるように。」と母に言いました。

そのため母と姉はどんなに辛くても、どんなに貧乏しても、私に勉強させてくれました。さらに、姉は私と母の生活のために、家を離れてプノンペンに働きに行き、毎月給料を家に送ってくれました。私たちの生活費と、私が大学に行く学費まで姉に頼りました。だから、私はどんな辛いことがあっても負けずに頑張らなければならないと思っています。温かくてとても幸せな家族です。もし、私が死んで、また生まれかわるなら、兄と姉達の兄弟になりたく、同じ両親の子供になりたくてたまらないのです。

私が2009年3月、日本に留学する時、家族の皆は物凄く喜んでくれました。とても嬉しくて、すごくや

る気もでて、どんな壁にぶつかっても負けずに打ち勝つように一生懸命やらなければならないとずっと思っています。

自分は日本で奨学生として、いろいろ大変な事に会いましたが、今自分はどこにいるのか？何のためか？将来、どんな人になれるのか？といつも考えています。その答えが、どんなものになるか良く分からないけど、それぞれをめざして頑張って進んで行こうと思っています。

日本は素晴らしい国

事務局員 東洋学園大学 レン・ヴェティ

私は日本に来てから、二年少し経ちました。日本に来る前に、日本についてはテレビ放送や映画や本をみたり、さらに人の話を聞いたりしました。その時からずっと今まで、日本は世界の中で有名な国で素晴らしい国だと思っています。

これから日本に対する気持ち、感じたこと、心に残った印象を少し述べたいと思います。私は日本に対して、三つの印象があります。

第一は、世界に認められている多くのシステムです。まずは法律ですが、全ての犯罪のことはきちんとやってくれます。ルールが厳しく、みんなが守っていると思います。実際に私が生活している中で、お巡りさんは何時でも、どこでも、まわっているのを見かけます。東京の中心なのでそういうのが当たり前かと思いましたが、離れた地方に行ってみてもほとんど同じです。それで、日本は安全な国だと思うようになりました。さらに、ほかのシステムも、整っています。

例えば、教育制度に関してもアメリカの制度に負けないくらい非常に素晴らしいです。日本には、アメリカからのみならず、中国、韓国、その他いろいろな国からの留学生が多くいます。日本の技術と科学は非常に優秀で、日本で作られた商品は斬新で、丈夫で、いい品質だと言われているのは確かなことです。特に、電気製品は豊富です。私も秋葉原に行って電気製品を見ましたが、とても気に入っています。法律や教育、技術、科学などがしっかりしていると、誰でもこんなところで暮らしたいでしょう。

第二は、日本人に対してです。日本にいる間にぜひ日本人の友達を多く作りたいです。友達だけではなく、普通の知り合いでも年齢にはかわからず、いろいろな意見を交換したいです。なぜならば、日本人は何でも勤勉にやっているし、細かいところまで気をつかうのが本当にいいところだと思っています。もちろん総ての日本人がそうだとは言いきれませんが、私が会ったほ

とんどの人がそういう人です。日本に来られたのも自分の力だけではなく、日本人の親切な人の支援で、新聞奨学生として来られました。



レン・ヴティさん

新聞奨学生に関しては、いろいろな国から、日本に留学する希望のある人を選び、日本では、最低2年間日本語学校で、日本語を勉強できるようになっています。日本語学校の勉強が終わったら、大学に進学することができるシステムになっています。私は、現在東洋学園大学に在学しています。学費、毎日の生活費も準備してもらっていますので、安心して楽しんでいきます。きちんと仕事と勉強ができれば、充分です。さらに言いますと、私たち三人は、現在のようにカンボジア教育支援基金（KEAF）の活動に参加することができて、大変嬉しく思っています。KEAFの皆様が、仕事が忙しいにもかかわらず、頑張ってカンボジアの子供たちを支援をしてくれていることにとても感謝しています。私は出来る限りのことをしたいと思っています。

第三は、日本の季節と気候についてです。カンボジアの季節は、乾季と雨季があります。日本ではカンボジアと違って、冬、春、夏（梅雨）と秋の四つの季節があります。季節が変わることにより、恵まれた美しい自然の景色が生まれてくるのは、大変いいところだと思います。日本は少し寒い国だといわれていますが、私にはどちらかというに住みやすい国だと思います。

しかし、最近起きた地震と東京電力福島第一原発の放射能は非常に危険なことだと思います。これから同じようなことが、起こらないよう祈っています。

以上が、私の日本に対する気持ち、感じたこと、心に残った印象でした。どうも、ありがとうございました。

日本は子どもの時からの夢

事務局員 東洋大学 オム・オドム

僕にとって日本は素晴らしい国だと思っています。日本に留学すると決心した時からそう思っていました。自分の将来のために日本への留学を希望しましたが、日本を知りたく、先進国での生活を実感したかったこともあります。

今年に入って日本での生活は5年目になりました。日本は色々な事が便利で安全で、暮らしやすい国です。生活面で見ると、特に東京ではどこでも24時間開いている店があり、何時でも買い物が可能です。日常生活に困ることがなく、必要なものがあれば、すぐに手に入れます。

確かにアジアの国々やヨーロッパや他の先進国と比較すれば、日本の物価は高いですが、僕たちが、日本で働いて得たお金で生活する場合、日本の物価はとても安いです。それに、アルバイトやパートタイムの仕事が多く、わずかな時間働いても沢山の金がもらえます。時給や給料が高く、物価が安いので、生活するのはとてもいい条件です。それに、国の設備や道路・電気・水道・ガスつまりインフラ設備などが充実していて、非常に良くて便利です。



オム・オドムさん

日本文化は素敵です。日本人はマナーが良く、性格が明るくやさしく親しみがありません。小学生のころから日本人が好きで、日本人の優しさに心を引かれていました。それがきっかけで日本へ行く夢が心に生まれました。僕が日本人を好きなもう一つの理由は、テレビで東日本大震災で被災された方々の生活に困っている様子を見ましたが、日本人は助け合う気持ちが非常に強いことです。貧しい国へ支援活動をしているので好きになりましたが、被災地では、一つのお握りを4人で分けあって食べていました。貧しい人々を助け

るのは素晴らしいことですが、さらに、困っている人同士が助け合っているのに感動しました。

電気がない暗い所で避難生活を送り、心身ともに疲労しており、食べ物や飲み物が足りなく困っている時でも、一生懸命助け合い、励まし合う様子を見て驚き感動しました。そこにいる方々が一日も早く元気を回復するように願ってやみません。

日本は経済・政治・文化・自然・暮らしのあらゆる面が優れていて素敵な国です。僕にとってここでの生活は非常に満足であり、自慢しています。いつか、カンボジアも日本と同じように活発で、素晴らしい国になれると信じています。そして、カンボジアと日本が、現在よりももっと親しく、兄弟のような関係になればいいと思っています。僕は日本そして日本人を心より愛しています。

最後に、カンボジア教育支援基金(KEAF)の活動については、カンボジアの子供たちへ奨学金や勉強道具などを支援していることによって、子供たちに新たな夢・希望をもたらしています。この活動を長く続けていきたいと思います。僕は一人のカンボジア人としてKEAF会長並びに役員の皆様方及び資金を支援くださる皆様方に感謝申し上げます。

～～遺跡写真～～

感動のアンコールワット

会員 木村 武司

今年1月25日、私達シニアツアーの仲間は、ベトナムハノイを経由して、アンコールワット遺跡のあるシュムリアップに夜、やっと到着しました。1月26日、朝5時半にホテルを出発し、初めて出会う、カンボジアの有名な遺跡・アンコールワットの地を訪れたのです。どんな所なのか心がわくわくしながら、薄暗い道を期待を膨らまして現場に着いたのです。

1. アンコールワットの黎明



周辺はまだ薄暗く、夜明けの空にはまだ星が輝いていたが、アンコールワット遺跡のシルエットが目飛び込んできた。その独特のシルエットが朝方の空に浮かび上がり、

その美しさに思わずシャッターを切った。こんなにも素晴らしい風景の出会いに、私はしばし時を忘れていた。

2. アンコールワットの朝日



徐々に空が明るくなり、アンコールワットの印象も徐々に変化をしていた。そして周辺の観光客から声が出始めた。朝日が出てくる感動の声である。

空が明るくなり、ついに建物の脇から太陽が顔を出し始めた。素晴らしい感動の瞬間であった。写真を撮影していて自己満足の世界に浸っていた。

3. アンコールワットの 彫刻1



遺跡の屋根の部分にある彫刻。昔の人が作り出した芸術品である。その素晴らしさに、ただただ感服していた。

4. アンコールワットの彫刻2



遺跡の回廊部分にある彫刻。一つや二つならともかく、回廊周辺の至る所にある彫刻。よくこんなにもたくさんの素晴らしい芸術品を作ったものだとしか言葉が出てこない。

～～ 事務局員の被災地でのボランティア活動。～～

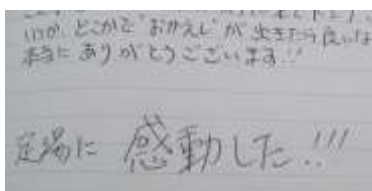
「足湯ボランティア活動」に参加して

理事 増子 建

さる4月18日から28日まで日本財団「東日本大地震被災者支援 RORD PROJECT」の「足湯ボランティア活動」に参加しました。岩手県遠野市に宿泊し、主に陸前高田市高田一中の避難所（約600人）と大船渡中の避難所（170人）で足湯ボランティアの活動をしました。活動は現地でのコーディネーターとして、①避難所での足湯活動、②避難所の訪問（人数、衣・食・住等で困っていること等）、③泥掻き、瓦礫撤去等でした。

遠野市は日常生活の全てが正常化しているため沿岸被災地支援の前線基地として、様々なボランティア団体の活動拠点となっています。地元の遠野被災地支援ボランティアネットワーク（愛称・遠野まごころネット。地元被災地に溶け込んでおり、信頼も厚い）の一員となって活動しました。

足湯活動とは、資格不要、年齢・性別に関係なく、初心者が参加しやすく、直接被災者との「つぶやき」の中からニーズが汲み取れ、きめ細かな支援内容への改善や提案も出来ます。活動期間は4泊5日。東京から日本財団から提供されたバスで現地に移動します。（無料）宿泊は岩手県遠野災害ボランティア支援センター「遠野まごころ寮」で（1泊500円）、釜石で被災した方が支援物資で料理した食事が提供されます。（朝300円、夕500円）さすがプロの腕、とてもおいしかったです。



足湯風景と感謝の伝言

活動の中でとても印象的だったことは、参加者の一人（神戸地震被災者の女性）の経験談でした。彼女は「被災者は見世物ではないので写真は撮らないで、被災の比較で慰めたり、また来ますなどと言わないで。マスコミとボランティアを見ると今

でも体が震えてくる」と話していました。また、遠野まごころ寮の食事を提供してくれた方は「人を助けようとした人は皆死んだ。震災の時は自分がまず助かることが最優先。このことを子どもに是非伝えていきたい」と話していました。

瓦礫撤去のボランティア

事務局員 水澤 壽郎

学生時代から関係していたF I W Cの現役達とハンセン氏病回復者が気仙沼の唐桑で経営している知的障害者施設を中心に4月29日から支援に入りました。テントに自炊という、昔、我々もやった事が無い厳しい条件で10日間の活動でしたが事故もなく帰れました。

唐桑半島という小さな地区ですが海岸よりもとより、こんな所まで!と思うような地点まで津波の被害が及び、TVとは異なる衝撃を受けました。津波に追われて裸足になり、びしょ濡れで丘にたどり着いた後の寒さ等、生々しい話を聞いて我々はただ、頷くばかりでした。地域の助け合いの精神と実践も驚きでした。

養殖と、鮪漁で豊かな地区で家は大きく、布団、食器類は大量で東京の家の3軒分は楽にあり、それらを運び出して廃棄する作業は大変でした。建坪が60,80坪はザラで120坪という家もありました。道路の瓦礫撤去は腰に来ます。

避難所も回りましたが配給されるのは同じ種類の梅ニギリとサンドイッチ（これが不味い）で人数の把握が悪く大量に余っていました。捨てるのは勿体無いので、それを貰い受けて朝と昼に食べましたが賞味期限切れ6日後というものもありました。我々は「乞食腹」（何食っても当たらない）だから平気でした。避難所の人々が苦情を言う気持ちが痛いほど分ります。3日も食べたら見ただけで「又か・・・」と思うようになったからです。

震災後2ヶ月近く経過しているのに工夫が足らず、企画する人は自分でも食べてみるべきです。作業量は多く、今も交代で学生達は唐桑で活動しています。色々な団体の調整を行うボランティアセンターを立ち上げる活動もしていて現地で喜ばれているようです。こういうコーディネーターが現地では不足しています。今時の学生の行動力と交渉力、企画力に驚きましたが議論が情緒的過ぎるのには危うさを感じました。

年会費、寄付金、奨学金をお振込頂きました方々に心からお礼申し上げます。(敬称略させていただきます)

個人情報保護のため非表示

理科資料集：泉山様（埼玉）

カンボジア市民フォーラムも時々、開催されます。カンボジアに関心のある方、ご連絡頂きましたらお知らせいたします。

A black and white photograph showing two water buffaloes wading in a body of water. The buffalo on the left is facing the camera, while the one on the right is facing away. The water is calm, and the background is a distant, hazy shoreline.

info@keaf-japan.com 事務局 竹口素弘